

# 大名みえ子です

〒319-1112 東海村村松 2401-2  
電話・FAX 029-284-0761  
E-mail toukai@oona-mieko.info

## 2017 年原水爆禁止 国民平和進行

7 月 3 日、平和進行東海村内コースに参加しました。

早朝は、雨がしっかり降っていましたが、歩けるのか心配しましたが、出発の 9 時にはすっかり上がり、行進中は熱射病が気になるほど暑くなりました。

国連で、核兵器全面廃絶につながる核兵器を禁止する法的拘束力のある

協定について交渉する国連会議が開かれ、「核兵器禁止条約」について話し合われています。3 日に公表された最終案は、国際社会の英知を結集した最良のものになっていると言われ、「大筋合意」がみられたとのこと。案文には被爆国の役割なども示されたと聞きましたが、3 月の 1 回目の国連会議に続き参加していない唯一の被爆国日本政府の態度にはがっかりするとともに怒りさえ覚えます。

長年のとりくみの積み重ねの上に開花したこうした画期的情勢のもと行われた今年の平和行進は、また格別の意義があると感じました。

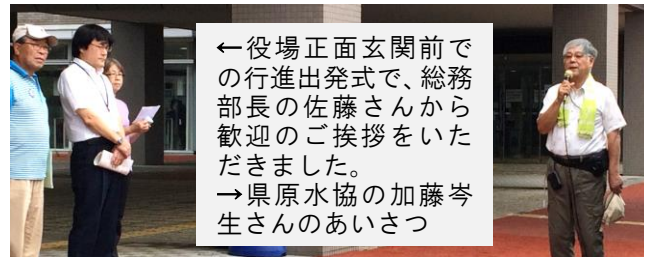


## 2017 年茨城県母親大会

1000 名の参加で開催される：取手一高



取手一校体育館で行われたこの一年間の運動交流。←



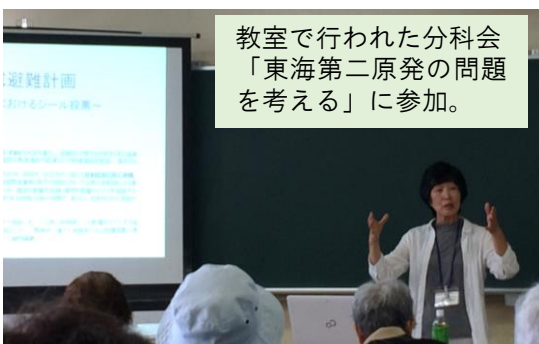
←役場正面玄関前での行進出発式で、総務部長の佐藤さんから歓迎のご挨拶をいただきました。→県原水協の加藤岑生さんのあいさつ

## 生命を産みだす母親は、生命を育て、生命を守ることをのぞみます

1954 年 3 月 1 日未明、アメリカは太平洋ビキニ環礁において広島型原爆の約 1000 倍の威力をもつ水爆実験(ブラボー)をおこないました。この核実験によって、マーシャル諸島の人びとや多くの日本漁船などが被災しました。

焼津のマグロはえ縄漁船「第五福龍丸」は、アメリカ政府の指定した危険区域外で操業中であつたにもかかわらず、“死の灰”を浴び、23 人の乗組員全員が急性放射能症にかかり、無線長の久保山愛吉さん(当時 40 歳)は「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」と言い残してその年の 9 月に亡くなりました。

母親大会は世界的議論を経たのち上記スローガンをもとに国内で毎年続けられてきました。



教室で行われた分科会「東海第二原発の問題を考える」に参加。

大名は、東海村をはじめとする町第二原発から 30 キロ圏内市海村が策定する分科会に出まし

助言者の荻三枝子さん(東海第二原発問題相談会)